

MAIMR Magazine

Advanced Institute
for Materials
Research

07
March 2015

[特集]

夢のような水 超臨界水

有機物と無機材料が出会うフロンティア

[AIMR in the world]

Thomas
P. Russell

ポリマーから数学連携まで

持続可能な社会に向けて

[巻頭対談インタビュー]

社会が抱える様々な課題の解決に向けて、大学が、AIMRが果たすべき役割とは

阿尻 雅文 × 小宮山 宏

東北大学原子分子材料科学高等研究機構(WPI-AIMR) 教授

三菱総合研究所 理事長 プラチナ高層ネットワーク 会長 東京大学 総長顧問

MAIMR Advanced Institute
for Materials
Research
Magazine
AIMRマガジン 2015年3月号

東北大学原子分子材料科学高等研究機構 広報・アウトリーチオフィス
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1

Tel. 022-217-6146 Mail. outreach@wpi-aimr.tohoku.ac.jp

<http://www.wpi-aimr.tohoku.ac.jp/>

<https://www.facebook.com/TohokuUniversity.AIMR>





ちょっと寄り道

MATERIALS

このコーナーでは、AIMRの研究分野である「材料科学」について、基礎的な事柄、歴史、世界の研究動向、AIMRにおける先端研究、等々をエッセイ風に紹介していきます。

* 第7話 *

トモグラフィー

トモグラフィー(Tomography)とは、外からは見ることのできない物体の内部構造を音波や電磁波などを用いて探る方法の総称です。例えば、地球内部の構造を調べる地震波トモグラフィーもその一つです。と言われてもピンと来ないかもしれませんが、例えばX線CT(X-ray Computed Tomography)と書けば、どのような装置か思い浮かぶ方も多いことでしょう。現在では多くの医療機関に設置され、病气やけがの



池田 進 *Susumu Ikeda*

1967年埼玉県生まれ。'90年東北大学理学部卒業。セメント会社勤務後、東京大学大学院理学系研究科で学位取得。同大学院新領域創成科学研究科助教等を経て、2008年よりAIMR助教。'10年より准教授、'11年より副事務部門長を併任。AIMR事務部門において、分野融合、数学-材料科学連携の支援を行うほか、共通機器の整備等を担当。

Song Toan PHAM

「自分の生きている世界について知りたいと考えたとき、科学が何か教えてくれると思いました」。こう、研究者になろうと思ったきっかけを答えてくれたPHAM助手。

いざ研究者となりたいと思ったとき、「なにかに新しいものが作りたい」と、材料科学を学び始めた。そして材料の中でも、実生活への応用の可能性が高い有機材料に魅かれた。「柔軟性や費用対効果の高さだけでなく、スピン情報を伝搬できる距離が無機材料に比べて長く、エレクトロニクスデバイスへの応用に向けてとても興味深い材料です」現在は、AIMR水上研究室で有機スピントロニクスデバイスの研究を行っている。「東北大学はスピントロニクス分野で非常に有名で、AIMRにはトップレベルの研究者と装置が揃っています。そんな環境で研究ができるのは非常に楽しみです」

仙台に来る前は、ベトナム、大阪に住んでいたという。冬は寒くてつらくないかと質問してみたら、笑顔でこう答えてくれた。「雪やスキーが好きなので、仙台の生活をとても楽しんでいます」

Song Toan PHAM

1986年、ベトナム・ハノイ生まれ。ベトナム国立大学卒業。大阪大学で博士号を取得後、2015年より現職

